

排水性舗装のトップコートに関する特記仕様書

横浜市 道路・交通政策局

令和8年4月1日

この特記仕様書は、排水性舗装を実施する場合に、交差点部や曲線部等の過酷な場所の耐骨材飛散及び排水性舗装の耐久性を向上させることを目的としたトップコート（着色可）を実施する際に適用する。

1 トップコート材料について

トップコート材料については、速硬タイプとし、施工中及び施工後においても地球環境に有害なものであってはならない。

なお、材料は室内試験等によるチェーン式ラベリング試験やカンタプロ試験において耐久性が確認できていること。

2 各測定項目について

1 すべり抵抗値

すべり抵抗値については、回転式すべり抵抗測定機（DFテスター）を用い、湿潤状態で「0.45」以上（設計速度60Km/h）であること。

測定は、1車線100mごとに1箇所を設定し実施する。

2 浸透水量

浸透水量は、既設の浸透能力に対する有効浸透水量90%以上を確保すること。

3 樹脂散布量

樹脂散布量は、1Kg/m²を目安とし、過小・過大に留意し、散布量が確認できること。

4 測定について

請負者は、上記について監督員の立会いのもと、測定を行うこと。

3 施工について

・路面表示の施工及び養生については、マスキング等の措置を万全に行い、支障のないよう実施すること。

・散布に当たっては、路面の清掃を行い、風等（自然風、車の通過による風）の影響によって、骨材及び色調にムラのないように均一に施工すること。

・出来形管理は、土木工事施工管理基準によるものとする。

4 その他

この特記仕様書に記載のないものは、監督員との協議による。